

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	①株式会社第一ビルディング ②明治安田ビルマネジメント株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	①東京都中央区京橋二丁目4番12号 ②東京都品川区西五反田二丁目27番4号
工場等の名称	金山総合ビル
工場等の所在地	名古屋市中区金山一丁目12番14号
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	不動産賃貸管理業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	～		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 金山総合ビル防災センター
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-331-9102		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

第一生命保険株式会社及び明治安田生命保険相互会社は地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて持続的発展が可能な社会実現に貢献致します。

① 継続的な環境改善

P D C Aサイクルに基づく環境施策の継続的な改善をはかります。

② 省資源・省エネルギーの推進

使用する電力、燃料等のエネルギー使用量を令和6年度までに令和3年度比1%削減します。

③ 従業員への環境教育及び社外への環境コミュニケーションの推進

従業員に対して環境教育を進め社外に対しては環境情報の公開を進めます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

金山総合ビル区分所有者

第一生命保険株式会社

明治安田生命保険相互会社



金山総合ビル管理者

株式会社第一ビルディング(名古屋支店) 取締役支店長

明治安田ビルマネジメント株式会社(中部センター) センター長



貸借先事業者



管理委託請負業者

グローブシップ株式会社(名古屋支店)

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		316	t-CO ₂
（温室効果ガス除去換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		316	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績	目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度	令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	1,358 t-CO ₂	1,345 t-CO ₂		316 t-CO ₂			
削減率（対基準年度）		1.0 %		76.7 %			
温室効果ガスみなし総排出量				t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	
削減率（対基準年度）				%	%	%	

項 目	基準年度の実績	目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度	令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量							
削減率（対基準年度）		%		%	%	%	
原単位あたりのみなし排出量							
削減率（対基準年度）				%	%	%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

C02フリー電力導入に伴い計画期間初年度において目標を達成した。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
令和4年度	CO2フリー電力の購入	中部電力ミライズとの受給契約締結

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・廃棄物の分別の徹底・リサイクルの推進